

平成二十八年年度

春の特別展

# 稲元八幡宮と

# 地域遺産



会期

平成28年

4月26日(火)～6月12日(日)

会場

海の道むなかた館 常設展示室  
企画展示ブース

〒811-3504 福岡県宗像市深田588番地

休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)

開館時間

9:00～18:00

お問合せ

TEL 0940-62-2600

<http://searoad.city.munakata.lg.jp>

主催

宗像市・宗像市教育委員会



# 稲元八幡宮と

## 地域遺産

宗像市のコミュニティセンターは地域に暮らす人々の地域活動の拠点となっています。かつては自然、社寺、近代には公民館が大きな役割を果たしてきました。特に神社は地域コミュニティの核として存在してきた歴史があります。

今回は宗像市稲元の八幡宮を核にし、神社を取り巻く歴史、生活、信仰など掘り起こして、過去から現在、そして未来を見つめるための企画、展示を行います。

### 稲元の移り変わり

今から約二二〇〇年前、河東中学校の建設時に弥生時代の遺跡が発掘調査され、この地域でムラづくりが始まったことがわかりました。

古墳時代の一六〇〇年前に稲元久保遺跡で鏡や玉を副葬した前方後円墳が築かれ、この地域をまとめたリーダーの墳墓と考えられています。また、一五〇〇年前の古墳時代には、宗像地域で最古の須恵器窯跡（現城西ヶ丘）が営まれ、周辺の古墳に須恵器が供給されていました。

九〇〇年ほど前の仁平四（一一五四）年、稲元八幡宮境内付近に埋納された滑石製経筒は、明治三十五年の発見を経て国指定の重要文化財に指定されました。

洪水のたびに流れを変えていた釣川は、三〇〇年ほど前の江戸時代に大規模な改修が実施されて現在の姿となり、流域の農業生産力は向上しました。



稲元八幡宮の本殿側面の妻飾



桜下武者図 万延元年(1860)



稲元久保遺跡14号墳(前方後円墳)から出土した鏡の破片と玉



三十六歌仙図  
(源信明 みなものさねあきら)



解体前の稲元八幡宮拝殿



稲元日焼原遺跡出土の土馬

